



## 一般会計決算議案 に対する討論

各会派等が、一定のスペースで自由にまとめたものを掲載しています。

9月29日の本会議で令和6年度一般会計決算議案に対する表決に先立ち、各会派等を代表して賛成・反対の討論が行われました。

討論は、自由民主党国分寺、立憲・市民フォーラム、国分寺・生活者ネットワーク、公明党、無会派（日本維新の会）、無会派（グリーンな国分寺）、無会派（れいわ新選組）、無会派（日本共産党国分寺市議団）の順で行いました。

賛成

「暮らし向上施策→人口増→安定税収」の道を  
立憲・市民フォーラム〈4名〉 星 いつろう



★**歳入**（696.7億円・12.6%増）の36.2%を市税（個人市民税・法人市民税・固定資産税・市たばこ税・都市計画税等）が占める。市民の納税によって市財政が成り立っていると言える。  
★新築住宅の増を要因として、固定資産税（87.7億円）、都市計画税（20.5億円）と約3%伸びている。所得に課す個人市民税（122.2億円）は、市税収入の半分に至る。給与所得者の納税義務者数（5.8万人）が前年度比884人増であることも寄与している。市のどのような施策が、人口や税収の増加に結びついたのか。その検証を市は市民に示すべきである。  
★財政の将来を考えるにあたり「施策のスクラップ」よりも、前向きな施策の展開を重視すべき。若い人たちが希望をもてるまちづくりを推進し、少子化を跳ね飛ばそう。そこに

お金はかかるけれども、若い世代が増えれば、結果として市税の安定的な確保につながり、市の未来を切り拓いていく。  
★この視点に立ち**歳出**（675.5億円・12.9%増）を検証した。  
★スクールソーシャルワーカーの常勤化を検討し、不登校によって疲弊する子どもと保護者の支援につなげていただきたい。  
★子どもの発達支援センター「つくしんぼ」において相談支援専門員の定着をはかり、セルフプランからサービス利用計画への移行、計画作成の新規受け入れに取り組み、障がい児の成長過程を支えていただきたい。  
★プラスチック資源物の「一括収集・有料化」に反対をしてきた。ごみ減量と財政効果にどうつながっているのか検証を求める。

賛成

まちづくりと市民へのケアのバランスを評価  
自由民主党国分寺〈6名〉 対馬 ふみあき



令和6年度の一般会計決算は、歳入決算額696億7189万2874円に対し、歳出決算額675億5529万9446円となった。執行率96.4%、繰越明許額が6000万円を切っていることはゼロベースからの予算の積み上げがしっかりと機能しているということであり、評価する。また、昨年度に比べ歳入総額が12.6%増加したことに対し、歳出総額が12.9%の増となっているにも関わらず経常収支比率が昨年度と同様の95.7%を維持したことは国分寺市の財政規模が拡大したとしても安定性を確保できているということの証左であると評価できる。令和6年度は新庁舎建設や市政施行60周年を迎えるにあたり様々な形で市の魅力を発信するなど国分寺市にとって非常に大きな節目を迎えた年であり、これらに必要な経費をしつ

かりと執行しつつアピランスケア、子ども家庭センター、多胎児妊婦健診の追加補助など「まちづくりとまちに住まう市民へのケア」のバランスが取れた事業構成であったと非常に高く評価している。  
一方で将来世代負担比率が毎年上昇しており、令和6年度の有形固定資産減価償却率は新庁舎建設により8.2%下がって55.2%となっているものの、今後公共施設の点検次第でこの償却率が変化する可能性があるため今後も注視が必要な状況であると考え。基金については計画的な積み増しが必要で、令和6年度の不用額は約24億4000万円となっており、決算額に対し約3.6%という数字は決して高い数字ではないものの、計画的な積み立てのためにこの数字をなるべく減らすべきと考える。

賛成

市民に寄り添う、前向きで希望溢れるまちを  
公明党〈3名〉 久保 けいこ



令和6年度は、市政施行60周年と新庁舎建設・移転という次への10年に向かっての大切な節目の年度。変化多き緊張感の中、機動的に市民生活や市内事業者を下支えする施策等を実行されたことを評価。  
**財政面では**、各指標がおおむね良好であり、堅実な財政運営を評価する。経常収支比率は前年度と同率で、公債費負担比率が前年度から0.5ポイント改善となった事は評価。財政調整基金をはじめ基金残高が減となった事と今後の公共施設マネジメント等の事業推進が続いていく事を見据え、今後も基金積み立てへの地道なご努力を求む。新庁舎での全般にわたる事務の電子化・システム改善等成果に期待。一方で、監査委員の指摘事項については、再発防止に向けたご努力を求める。

**市の施策全般では**、学校給食費無償化、切れ目のない子育て支援、こども家庭センター設置準備、がん患者アピランスケア支援、認知症普及啓発、在宅レスパイト・就労等支援、平和事業の推進、観光プロモーション制作事業、フードシェアリング推進、包括施設管理委託事業の拡大、二次元コード付きカード型地域応援商品券事務事業、学校水泳指導の委託事業、新庁舎整備とデジタル化推進、市政施行60周年記念事業など積極的に展開された。  
以上、**令和6年度の決算は、財政規律を堅持した上で、市民ニーズへの的確な対応が進められたと評価。今後も市民生活に寄り添い、守りながら、さらなる目標を掲げ、朗らかに業務にあたってくださいことを求め賛成とする。**

賛成

新庁舎にふさわしい、信頼される市政運営を  
国分寺・生活者ネットワーク〈3名〉 小坂 まさ代



令和6年度の実質収支は約20億5千万円の黒字となったが、基金残高は前年度から約47億円減少し100億4,525万円。地方債の年度末未償還額は350億6,184万円となり将来負担比率は15.3%から54.7%へと大幅に上昇。非常に厳しい資金繰りだったが、市中からの借入を行わなかったこと、財政力指数が引き続き1点台となったことを評価。激しい物価高騰の中、新庁舎建設という大事業を進め、財政運営上でも節目となる1年だったと考える。  
■**PFASについて**。他の自治体より早く、むかしの井戸のPFAS調査を始めて5年。令和6年度からはPFHxSの調査も実施。他自治体と情報共有し、都の調査結果も含め汚染の状況分析を■**認知症施策について**。気軽に利用できる相談や憩いの場としての認知症カフェは重要。出

かけたくなる場となるようさらなる工夫を■**一時保育について**。前年度に比べ利用人数・施設数ともに増加し、拡充が進んだ点を評価。多様な保育サービスにより選択肢は広がる一方、制度の複雑化で利用者が戸惑う懸念も。今後もニーズに応じた保育環境の整備とサービスのわかりやすい周知を■**放課後子どもプラン**。年間延べ参加者数は前年度比6,238人増の91,765人。実施回数全体は前年度より増えたが、学校間の開催回数の差はさらに拡大。猛暑等により室内の居場所の重要性が増している。学校から理解と協力を得られるよう尽力を※**令和11年度には基金が55億円にまで減少すると推計されている**。地方債とのバランスをとり、社会情勢に対応できる基金のあり方について検討を求め、賛成の討論とする。

賛成

もっと！暮らしと環境を守る取り組みを  
無会派（グリーンな国分寺）〈1名〉 鈴木 ちひろ



新庁舎から**再生可能エネルギー**電力をスタートしたことを評価する。必ず2030年カーボンハーフ達成を。「すべての人を大切にするまち宣言」を生かし、**多文化共生や性の多様性**

への理解を促進する取り組みを。しょうがいのある人の外出を支える**ガイドヘルパー**の報酬引き上げを。地下水の**有機フッ素化合物（PFAS）**汚染の情報のアップデートを。

賛成

守るべきものは守り変えるべきことは変える  
無会派（日本維新の会）〈1名〉 寺嶋 たけし



◆余力の無い財務状況で、収支均衡の健全財政維持を評価。  
◆人口構造変化（歳入減歳出増）に備え、**縮小最適回避の施策**（現役・将来世代への投資施策等）を要望。

◆**財務処理を自分事化**し、厳正管理を徹底する意識醸成と仕組化を。  
◆**新施策発掘と磨き上げ並びに、不要施策の見直し推進による市政発展への挑戦**を新市長に大いに期待。

反対

市民負担増ではなく物価高騰への支援充実を  
無会派（日本共産党国分寺市議団）〈1名〉 中山 こう



2024年度も物価高が続く中で、**市民・事業者への支援が求められた**。しかし、国からの2回あった臨時交付金で1回の商品券事業しか実施しなかった。**交付金の都度、新たな支援事**

**業を具体化するべき**。また市民への負担増になる**プラごみ有料化、ぶんバス運賃値上げに反対**。特にぶんバスでは市民への説明不足も明らかで認めることはできない。

反対

人や公共施設にもっとおカネを！  
無会派（れいわ新選組）〈1名〉 高野 ふみお



**積立金**は主に**新庁舎**の分で約40億円減少、その分が**地方債**の増となった。この方向でお金は貯め込まず**積極的に財政**を使うべきだ。思い切った**人への投資、非正規市職員の処遇改善、**

**育休応援、先生の市正規雇用**などだ。**防災対応はお金を借りてでもすぐやるべき**。**ぶんバス値上げやプラごみ袋有料化**など**市民負担増**でなく、**人への投資**で維持・発展を。